

ご入学おめでとうございます。桜前線がかけぬけて、春の息吹と輝きが一斉に海、山、そして街に溢れているこの広島に、3ヶ国の留学生を含む684名の皆さんを、県立広島大学の学生、そして大学院生としてお迎えできましたことは、私達教職員の大きな喜びとするところです。併せて、これまで皆さんを支えてこられましたご家族の方々に、県立広島大学を代表いたしまして心よりお祝いを申し上げます。さらに、ご多忙の中、湯崎広島県知事、林広島県議会議長を始め、ご来賓の皆さまにご臨席頂き、誠に有り難うございます。

それでは最初に、皆さんが門をくぐられましたこの県立広島大学についての紹介から、お話を始めたいと思います。大学の源流を1920年にさかのぼる広島市の県立広島女子大学、庄原市の広島県立大学、そして三原市の広島県立保健福祉大学が、再編・統合を行い、県民や多くの方々の期待の下に本学は、2005年に新たな県立広島大学として誕生しました。以来、広島市、庄原市そして三原市にある3つのキャンパス、さらに昨年、広島市の中心部に広島県からの無償貸与を受けた知の連携拠点としてのサテライトキャンパスが加わり、これらの4キャンパスを基点として、教育・研究のさらなる充実と、その成果を地域社会に還元することを目指した活動を行い、今ここに、10年目の春を皆さんと共に迎えようとしています。

大学を支える力は、教育力と研究力です。10年目を迎えた現在、3大学統合による確かな向上を見ることができます。教育力について言えば、私達の大学の全授業に対する学生の満足度調査結果は、統合初年度は80%でしたが、毎年上昇し、教職員一体となった教育力改善の努力により、昨年度は94%にまで達しています。学生が授業に満足を感じることは、大学がしっかりした教育を行っている一つの物差しになります。

一方の研究力についてはどうでしょうか。大学の客観的な研究力指標の一つとされている文部科学省からの科学研究費助成事業の採択件数が、本学の力を証明しています。昨年度は10年前の大学統合時の2倍以上、91件の採択件数に達し、この7年間、中国・四国・九州の26の公立大学の中で、トップの座に位置しています。

こうした教育力と研究力は、学生の真摯に学ぶ姿勢と相乗効果を発揮して、本学の誇るべき教育と研究成果を産み出しています。数値で示せるものとして、国家試験の合格率を取り上げます。昨年度のデータで言えば、管理栄養士、保健師、助産師、理学療法士の各国家試験については全員合格、100%の実績を残しています。また、その他の国家試験合格率などにおいても、県内の国公立大学でのトップは勿論ですが、全国レベルでも競うに値する大学は、数校に限られています。しかし、ここで強調したいことは、私達の大学は、単に国家試験の合格率を誇るだけの大学ではないということです。言い換えれば、国家試験に合格することを、本学の教育の最終目的とは考えていないということです。それでは

私達の大学は、学生教育にどのような目標を持って臨んでいるかということですが、答えは明白です。

本学は、昨年度からスタートした第二期中期目標に、「グローバル社会の進展を見据えた実践力のある人材育成」をトップスローガンに掲げて全力を挙げて、教育に取り組むことを約束しました。もう少し掘り下げて説明します。言葉の定義にもなりますが、グローブは地球全体を意味する言葉です。したがってグローバル社会では、国家や地域という境界を越え、環境破壊、飢餓、貧困、所得格差など様々な問題が地球規模で露呈することになります。これらの問題に挑戦し、様々な課題を解決しうる実践力を養うというのが、私達の大学の取り組んでいる教育目標です。

特にここで取り上げたいことは、実践力の根底となる「問題発見能力と課題解決能力」です。この二つの能力は、高校までの通常の教育とは一線を画すもので、授業内容や様々な出来事に疑問を持ち、問題を自ら解き明かす習慣をつけることが大切です。高校時代の一方的に教育指導を受ける立場に代わり、知る喜びを自ら求めるアクティブな姿勢が求められます。

大学のカリキュラムの中で総合的にこの能力を鍛える場が、卒論研究です。私達の大学では、理系文系を問わず、全学部とも必修として全学生に卒論研究を課し、特に力を入れて教育しています。皆さんは、1年間あるいは学部によっては2年間、自分の興味ある分野の領域から、だれも取り組んだことの無い課題を設定し、それを文系では書物や調査、理系では主に実験によって解き明かし、課題の解決に向けて研究を行います。解決の手法においてはTVゲームのような攻略本はありません。答えを自ら探り導くのです。

そして卒業論文、大学院では修士論文、あるいは博士論文を完成した時にはきっとそこに、新たに一步成長した自分を感じ取ることができるはずです。教員は自らの教育力と研究力をフルに発揮して、卒論研究への指導に努めています。今年度も、4年生の卒論研究の成果が、世界の名だたるジャーナルに論文として掲載され、先日の卒業式の日に学長表彰を行いました。教員によるしっかりとした教育・研究指導からは、今社会を賑わせているようなデータの改ざんや、他の論文の一部を盗用するような学生は生じません。また、ジャーナルなどに掲載されなくても、論文に取り組んだ汗と自らがやり遂げた自信が、グローバル社会で活躍する上での実践力を育む大きな力となることは、確信を持って言えます。

繰り返しになりますが、実践力の根底には、自ら疑問を持ち、自らの力で課題を解決することが絶対的要素になります。その努力は、いつしか知る喜びを感じ取る自分を作り出します。幼いうちに聴力、視力、言葉を失いながらも、教育活動や福祉社会の形成に功績を残したヘレン・ケラー女史の言葉の中に、「知識は力なり。しかし、私は、知識は幸福だと思う」というものがあります。知る喜び、知ったことの感動は、さらに未知への興味を

ひろげ、一層知りたいという好奇心とさらなる感動に繋がります。本学の学生には、そうした自ら知るという幸せを身につけ、実践力を確かなものにして、社会に巣立って欲しいと強く願っています。

過去は変えられませんが、未来のあなた自身は、これから自分が作ることを自覚して下さい。全ては今からです。高校までの自分では、皆さんは社会に対してまだ何も回答を出していないことを意識してください。私達は、この4年間あるいは大学院の数年間で、飛躍的に自己成長を遂げて巣立っていった多くの学生を知っております。

最後に、4年前に亡くなった、事業家であり多くの啓発を私達に与えてくれたジム・ローンの言葉で、私の式辞を締めくくります。

「収穫は種を植えた人だけに訪れる。祈った人ではない」

皆さんの心に、種をまくのは皆さん自身です。

私達、県立広島大学教職員一同は、心から、皆さんの積極的な学びと学生生活を応援します。頑張りましょう。

平成26年4月3日

県立広島大学 学長 中村健一